

健康な土づくり 20周年記念大会

「ミネラルと共に生涯現役」
次世代に伝えたいこと。それがミネラル栽培



本町の主要施策として平成10年から取り組んできた「健康な土づくり事業」は今年で20周年を迎えました。この節目を契機に、これまでの取り組みを振り返るとともに、さらなる飛躍への第一歩を踏み出すべく、町では11月11日に「健康な土づくり20周年記念大会」を開催しました。大会では、薄友喜町長が「にしあいつ健康ミネラル野菜普及会の皆さんと共に知恵を出し合い、この大会を契機に新しいステージに踏み出せるよう、町を挙げて健康な土づくりを進めていきたい」とあいさつし、続いて健康な土づくり事業によるミネラル栽培の普及に尽力した、にしあいつ健康ミネラル野菜普及会の武藤佐代子会長に感謝状を贈りました。また、株式会社生科研の中嶋大地代表取締役会長が「生命を守る健康な土づくり」と題して記念講演を行ったほか、宇川クリーンファームの宇川進代表（猪苗代町）が事例発表を行い、普及会の武藤会長と若手農業者の坂井康司さんが活動報告を行いました。

パネルディスカッションでは、宇川代表をコーディネーターに、薄町長や中嶋会長、ヤオマサ株式会社青果バイヤーの市川俊明さん、普及会初代会長の宇多川洋さん、同現会長の武藤さん、若手農業者の坂井さんがパネラーとなり、健康な土づくりやミネラル栽培のこれから、西会津町の農業の未来などについて意見を交わしました。

大会の最後には、普及会の佐藤アサ子副会長が「今後も農業への意識向上と次世代への継承を目指し、健康な土づくりによるミネラル栽培に取り組んでいきます」と声高らかに大会宣言を朗読しました。

健康な土づくり 20年の歩み

- 平成9年10月 第2回ふるさといきいき村づくり全国サミット開催。基調講演は農業科学研究所所長の中嶋常允先生による「土と食物といのち」
- 平成10年12月 町内110カ所で土壌分析を実施
- 平成11年2月 土壌分析の結果に基づき、中嶋先生が「健康を守る食べ物」と題し講演
- 平成11年11月 農業科学研究所視察研修を実施（熊本県）
- 平成12年8月 「にしあいつ健康ミネラル野菜普及会」発足。ピーアールの一環として「健康ミネラル野菜市」を開催。また、ミネラル野菜を販売する直売所を設置
- 平成13年～15年 健康な土づくり活動「健康な土づくり推進員養成講座」を開催（毎年）

- 平成14年4月 学校給食へミネラル栽培米・ミネラル野菜の供給開始
- 平成14年6月 「にしあいつ健康ミネラル野菜市」を道の駅敷地内にプレハブでオープン
- 平成14年8月 町内福祉施設へミネラル栽培米・ミネラル野菜の供給開始
- 平成16年6月 「交流物産館よりっせ」オープン、店内での販売を開始
- 平成16年12月 構造改革特区の認定を受け、企業の農業参入を始める
- 平成17年4月 耐雪型パイプハウスリース事業の開始により、施設園芸の規模拡大と通年栽培が可能に
- 平成17年7月 首都圏スーパーへ野菜を出荷、産直形式で販売開始
- 平成18年3月 にしあいつミネラル農産物振興計画策定、5年後を目標に推進が始まる

（次ページに続く）

ミネラル栽培の普及推進に感謝状



にしあいづ健康ミネラル野菜普及会

武藤 佐代子 会長

●むとう・さよこ

平成 12 年のにしあいづ健康ミネラル野菜普及会発足当時から会員として活動し、平成 19 年から現職。健康な土づくりのけん引役として、ミネラル栽培の普及推進に尽力。

活動報告



若手農業者

坂井 康司さん

●さかい・こうじ

稲作と園芸の複合経営を行う若手農業者。自らの取り組みと日々の生活を活動報告として発表した。

苦労したことや、失敗した思い出もいっぱい。でも、同じ目標を持った仲間が集まれる、楽しい場所でもあった――。（武藤さんの活動報告から）

平成10年から「健康な土づくり」の取り組みが始まり、平成14年からは道の駅に設置したプレハブで直売を開始しました。物を売ったこともなければ、ましてレジを打ったことなどない、普通のおばさんたちが直売所を始めたんです。ですから、苦労したことも、失敗した思い出もたくさんあります。でも、

2年間、同じ目標を持った仲間が集まれる、楽しい場所でもありました。

20年の取り組みで畑が健康になり、野菜がおいしくなり、おばさんたちの懐もちよつとだけ健康になったと思います。ミネラル栽培と共に生涯現役。この思いを次世代に伝えていきたいと思っています。

事例発表



宇川クリーンファーム

宇川 進代表 (猪苗代町)

●うかわ・すすむ

中嶋農法を軸にした自身の農業人生を事例として発表。西会津の野菜の安さを指摘し、自分の野菜に責任と自信を持つことを説いた。

記念講演「生命を守る健康な土づくり」から

健康な根が育つ環境が大切

「健康な土づくりとは、健康な根が育つ環境をつくることです」そう話す中嶋会長は、野菜の状態を人間の状態に例えながら、分かりやすく来場者に向かって講演されました。

「健康な土といっても、見ただけでは分かりません。たまには触ってみてください。水を付けて触って、つるつるしていれば粘土質、ざらざらしていれば砂が多いですね。一番いい状態は『つるざら』です。また、栄養は多ければ良いというわけではありません。

やり過ぎると根痛みしたり、葉が枯れてしまったりすることもあります。健康な状態を保つことが大切です」

根の観察ポイント

中嶋会長は、土が健康かどうかを判断するために、根の状態を見ることが大切であると話しました。

「根を観察するポイントとして、一番大事なのは『量』です。数、長さ、体積などで判断できます。次に大切なのが『若さ』です。白くて柔らかい状態が一番良く、次に乳濁色、そして黄色、茶褐色、黒褐色と続きます」

「観察」が的確な作業につながる

「農業の基本は観察が6割、判断が2割、実行が2割という中嶋常允さんの言葉があります。今は実行が6割くらいかもしれませんが、地上の様子を観察し、根の状態を考えながら水管理や肥培管理を行うのと、そうでないのとでは大きく違います。ですから、私は観察が非常に重要だと考えています。観察がしっかりできれば、それが的確な作業につながります」と観察の重要性を説いた中嶋会長は、講演の最後に国内のさまざまな事例を紹介し、「20周年を新たなスタートとして、健康ミネラル野菜の先駆的な産地として、ますます発展していくことを祈念します」と講演を締めくくりました。

農業は観察が大事。
うまく観察できれば、それが
的確な作業につながります



株式会社生科研

中嶋 大地 代表取締役会長

●なかしま・だいち

昭和 24 年生まれ、熊本県出身。東京農業大学農学部卒業。昭和 60 年に株式会社生科研の取締役研究開発部長に就任し、その後常務取締役、代表取締役専務、代表取締役社長などを歴任。平成 20 年から現職。

平成 18 年 4 月

栽培指導専門員委嘱。迅速な指導体制が整う。また、町内の2団体が統合し、「西会津ミネラル有機栽培米研究会」を設立

平成 18 年 11 月

冬期間に「寒締めホウレンソウ」「寒締めレタス」の試験栽培を開始

平成 19 年 4 月

軟白ネギの栽培開始。ミネラル栽培ほ場の認定開始

平成 20 年 2 月

「にしあいづ施設園芸生産振興組合」が発足

平成 20 年 8 月

商標登録「百歳への挑戦・ミネラルっ娘」を利用した出荷袋での野菜販売を開始

平成 20 年 10 月

町内スーパーへの持ち込み販売開始

平成 20 年 11 月

「健康な土づくり10周年記念大会」開催

平成 21 年 6 月

会津管内のスーパーにおいて契約出荷を開始

平成 23 年 3 月

東京電力福島第一原子力発電所事故による放射性物質拡散、農林産物出荷停止。国、県による放射性物質検査開始（あらためて土づくりの大切さが再認識される）

平成 24 年 6 月

産直野菜出荷組合を設立、生産者主体の出荷が始まる

平成 26 年 3 月

豊かなむらづくり顕彰事業「福島県知事賞」「福島民友新聞社社長賞」受賞

平成 26 年 11 月

豊かなむらづくり全国表彰事業「農林水産大臣賞」受賞

平成 27 年 7 月

商標登録「元気な土からの恵み・ミネラルっ娘」を利用した出荷袋での野菜販売を開始

平成 28 年 8 月

道の駅敷地内に「ミネラル野菜の家」オープン

平成 29 年 8 月

「ミネラル野菜の家」1周年イベント開催

平成 30 年 11 月

「健康な土づくり20周年記念大会」開催

平成 30 年 11 月